

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 8月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500290		
法人名	合資会社 オープンハート		
事業所名	グループホーム 美優さくらんぼ		
所在地	〒046-0003 北海道余市町黒川町13丁目36-14 電話 0135-23-2500		
評価機関名	北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年7月20日	評価確定日	平成21年8月27日

【情報提供票より】（ 21年 6月 26日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 17年 12月 21日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	18人 常勤13人, 非常勤 5人, 常勤換算 6人

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1～2階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	22,000円	
敷金	有()	<u>無</u> 10～3月(暖房費)9,000円		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(30,000円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,150円			

（4）利用者の概要(6月 26日 現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	1	要介護2	8		
要介護3	4	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84歳	最低	67歳	最高	94歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	よいちクリニック・田中内科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者は過ごしやすく、職員は稼働しやすく様々に工夫された間取りで、日当たりの良いリビングと居室は居心地良く造られ、安心と安全な工夫が随所に施されている事業所である。更に、自然が広がり見晴らしの良い立地に、ゆったりと開放的に建てられ利用者職員共に過ごしやすい環境が整っている。地域住民とは、近隣の散歩をする際など日常的に、挨拶や声かけなど良好な関係作りがなされ、住民の事業所への訪問や、野菜や果物などを差し入れて下さるなど、地域とのつながりが深まってきている様子が窺える。また、日常的に散歩や体操などを積極的に取り入れ、利用者の能力が低下しないように支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価において改善項目として挙げられた、理念の改正が成され、地域住民との交流を思考に入れた理念が作られている。地域との関わりは、良好な関係作りがなされている。同業者との交流や災害対策については、更なる取組みを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取組み及び作成には、職員交代などがあり慣れない状況ではあったが、協力し手分けをして各項目を検討し、事業所としての現状を把握しまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に開催される運営推進会議には利用者家族、地域住民、行政担当者などが出席し、活発に意見交換が行なわれている。地域の方がボランティアとして関わり始める等積極的な取組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会や運営推進会議の出席など、家族との接点は多くあり、気軽に意見や要望など言い合える関係作りが出来つつある。率直な意見は運営に反映するように、職員間でテーマとして話し合い、希望に添うように配慮している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区会(町内会)に加入し、町の夏祭りに等に参加している。近隣を利用者と職員が散歩をした際など日常的に、住民と挨拶をするなど心掛けて実践し、良好な関係作りがなされている。住民が事業所への訪問や、野菜や果物などを差し入れて下さるなど、地域とのつながりが深まってきている様子が窺える。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域住民との交流の下」という文言が入った、地域との関係を重視した事業所独自の運営理念がつくりあげられている。地域の中で孤立することなく地域住民との交流を思考に入れた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の目につくところに掲示し、日常的に意識しながら、実践に向けた取り組みを行っている。会議などで実践状況の確認も行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区会（町内会）に加入し、町の夏祭りに参加している。また、日常的に近隣の散歩をする際、挨拶や声かけなど良好な関係作りがなされている。さらに、近隣の方が事業所へ野菜や果物などを差し入れて下さることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員交代が行われたばかりで、慣れない状況であるが、職員全員が手分けをして自己評価の各項目を検討し、事業所の実情を客観的に把握し、課題を見出してその意義を再確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催される運営推進会議は利用者家族や地域住民、また行政担当者が出席し、幅広く意見交換をしてケアサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	余市町の担当者は事業所との関係作りを重視し、情報の共有をはじめ、相談や指導をしながら、よりよい向上を目指して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	これまでの写真付お手紙に替わり、今年度からホーム便りをユニット毎に毎月作成し、行事や日々の暮らしぶりの、写真とエピソードを交え詳細を伝えている。また、金銭の報告は鮮明にし定期的な報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において家族へ参加を呼びかけ、多数の出席を得ている。運営推進会議では事業所の現状報告等を行い、活発な意見交換行なわれ、安心して意見・不満・苦情を示せるような機会を積極的に作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、必要最小限に抑えるように心掛けている。やむ得ず職員が交代をせざるを得ない場合も、利用者へのダメージを防ぐためミーティングやカンファレンスで十分検討し、チームでケアを行い馴染みの関係を出るだけ崩さないように配慮し、サービスの一貫性が保たれるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員には業務内容の理解が得られるように、法人が研修を実施している。しかし、職員の継続的な研修や外部研修への参加などの取り組みは不足している。	○	事業所として計画的に時間を設定して研修を実施することが望ましい。さらに、外部研修にも積極的参加を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、地域の同業者との交流や情報交換などの取り組みには至っていない。今年度、余市町内にグループホーム連絡協議会が設置されることとなっている。相互訪問等の活動の計画は現在のところ未定である。	○	今年度、余市町内にグループホーム連絡協議会が設置されることとなっている。今後の活動や、取り組みに期待し、さらに積極的な呼びかけなど前向きな取り組みが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望の方と家族の見学をはじめ、何回かの面談などを通して相互に理解を深め、安心して利用が開始できるように配慮している。職員が全員で意見を言い合い、決定に至るように工夫検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は出来るだけ担当する利用者に寄り添い、本人の思いを共有できるように努力している。また、利用者との関わりの中から、学んだり、支えられることも多く、支援される側と言う意識をもたずお互いが協働し合いながら穏やかな生活が送れるような支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの個性や性格、生き立ちや家族との話しあい、又は介護計画を参考にしながら暮らし方の希望に添うように支援している。職員全員が、一人ひとりの思いや意向について関心を持ち、把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意見をセンター方式等に取り入れ、職員が全員の介護計画作成に関わり、意見を出し合い、気づきは申し送りノートに記載し、共有してチームケアに取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のユニットの会議で、利用者全員の介護計画について利用者一人ひとりがその人らしい暮らすことができているか職員全員で検討し、3カ月毎の現状に添う介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所で、多様な支援が行えるように車を用意している。利用者の希望や家族の要望で、通院介助や理美容院の送迎、個別の買物同行など利用者と家族の要望に臨機応変な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、毎月内科医師の往診がある。さらに、他科の受診は利用者個別に対応し、安心した医療を受けられるように支援している。看護師が週2回勤務している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者それぞれ、持病のある方もおり、看護師を配置し、往診医師の確保もしている。契約時に医療連携体制指針を提示して了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個室の尊重をはじめ、一人ひとりの個性を重んじた対応に心掛けている。また、記録の保管はパソコンで行い、情報の管理に工夫をし、プライバシーを損ねないように配慮がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居間の使いやすいテーブルを中心に、一人ひとりのペースに合わせた過ごし方を模索し、体操や音楽、趣味活動など作品作りなどに取り組んでいる。外出支援は日常的にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面式の流し台で利用者の顔を見ながら準備をし、食事が生活の中で楽しみとなるように、利用者も関わって盛り付けなどを行っている。また、片付けなど利用者とともに作業している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	明るくゆったりとした浴室で、利用者の希望に合わせた入浴を実施している。入浴の記録がわかりやすく記載され、週2回以上を目安にしているが、希望に応じて毎日楽しんでいる利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の周囲に花壇があり、利用者の楽しみとなっている。また、家事の協力を習慣として取り組む利用者もいる。各自の個性をいかした楽しみごとなど、介護計画に盛り込み支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自立歩行ができない車椅子の利用者も、天候が許す限り、職員と散歩に出かけることを日常的に支援している。私物の買物なども利用者の外出の機会としている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが、鍵を掛けることの弊害を十分理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関や出入り口等にセンサーを設置し、室内にいても人の動きが把握できる仕組みになっている。夜間のみ施錠し、日中鍵のかけないケアを徹底し、外出時は職員が付添うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は年2回実施し、消防署の指導をいただき、職員は災害のマニュアルを側において、日頃から、避難の方法を身につけるよう努力している。しかし、地域の協力体制の働きかけには至っていない。	○	運営推進会議などを利用して、災害時に地域の協力が得られるような取組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者に献立と食材搬入を委託し、バランスの良い食事を提供している。摂取量や水分量など、職員は細かく記載し、刻み食とろみなど一人ひとりの状態にあわせた柔軟な支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体は白い壁面で清潔感があり、間取りがゆったりとして、居間や食堂は落ち着いた造りになっている。利用者や職員が、生活しやすい住まいで、調度品の配置や、玄関・浴室などにも段差、手すり、椅子の設置などの工夫があり居心地良く過ごしている。玄関前のベンチは利用者に大変喜ばれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には事業所備え付けのロッカー以外は家具や写真や小物などを配置して、それぞれ馴染みの「その人らしく」、落ち着いた居場所になっている。仏壇を置いている利用者もいる。		

※  は、重点項目。